

2011年度大阪女学院中学校・高等学校事業計画

I. 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

1. キリスト教に基づく人間理解の深化

大阪女学院中学校・高等学校は女性が一人の人として、何らかの方法で働く義務を悟り、正直に仕事をするを誇りとし、日常生活の雑事を越えて、物事を見抜く力のある人間を育てることを目指す。宗教教育については、長年の実績の積み重ねを踏まえた上で、キリスト教に基づく人間理解を深め、一人ひとりがかけがえのない存在であることの自覚を促し、生徒自らの生き方と他者とのかかわり方を学ばせる。

また、入学後、保護者に対しても、学校への理解を深めてもらえるよう努める。

2. 建学の精神の再認識と再構築

女子校から共学に改組する学校が多い中、本校の建学の精神を再認識し、教育理念を確認しつつ充実した教育に努める。

II. 教育の内容

上記の教育理念を具現化するため、生徒一人一人に与えられた賜を生かし、社会に貢献するための学力、協調性をもった行動力、自己と他者を大切にする人権意識、円滑な社会生活を営むための規範意識、そして世界平和を実現するための国際性を身につけることを目指し、以下の取り組みを行う。

1. 学力向上の取り組み

本校における一貫カリキュラムの成果と課題についての検討を更に進め、各教科の学力の向上と定着を図るための検討を進める。

2. 授業内容の充実のための取り組み

2週間時間割の導入により、技術家庭の実習時間を充実させ、より効果的な授業を行う。また、2週間時間割により、授業日を増やすことによって、授業内容を充実させ、学力の向上と定着をはかる。

3. 生徒の人権意識を深める取り組み

解放教育(人権教育)については、「私たちの人権感覚を問い直そう」～一人ひとりを大切にしよう～という教育目標の下で、一人ひとりが大切にされる解放教育を目指す。また世界の人権状況と人権獲得の歴史を学び、守り、発展させていく意味を考えさせ、各学年の成長過程に応じて、生徒自らの人権意識を深める取り組みをテーマを決めて行う。また、携帯電話・インターネットの扱いやいじめの問題に対する生徒の問題意識を更に深める。

4. 生徒の生活全般に対する指導

生活指導については、中学・高校それぞれの発達段階を考慮しつつ、一貫した原則の下に生活全般について指導を行い、現代社会が生じさせる個々の問題に対し具体的な対応をしていく。特に、基本的な生活習慣・社会のルールを身に付けるよう指導し、時間、物の管理、服装や身だしなみ、礼儀、公共のマナーや美化等について、周りに配慮して行動できるように指導する。

5. 国際理解教育の推進

留学や留学生との交流を通じ、言語への関心を深め、言語や文化の違いを知ることで、世界に目を向け、広い視野をもって物事を考える生徒を育てる。(詳細はX-6)

III. 教育の実施体制

1. 生徒の安定的な人数確保のための取り組み

今後とも長期的に続く少子化への対応、大阪府の公立学校改革への対応を検討し、実施する。また、

中学入学者の人数確保を安定的に行っていくため、中学の入試結果の集計や分析を更に充実させ、次年度の入学予定者の把握に役立たせると共に、受験生の保護者の学校理解を深める。高校入学者の増加を計るため、公立中学校の訪問等具体的な方策を継続する。

2. 中学・高校の組織改善の取り組み

教職員の意識の共有化を行いつつ、組織の再構築と運営方法の見直しを続ける。管理職、部長、主任等の決定の方法、職務を見直し、中高一貫教育の更なる充実をめざす組織作りを図る。

3. 中学・高校としての図書館機能の充実

①蔵書の充実

- a. 学力低下や様々な背景をもつ生徒、また多様な要望をもつ生徒を教育・指導するために必要な資料の収集
- b. 職員の教材研究用の資料の収集
- c. 学校行事(遠足、修学旅行、文化祭など)の事前学習や準備に必要な資料の収集
- d. キャリア教育に関する資料の収集
- e. 生徒の学習に役立つ資料の収集
- f. 生徒の知的好奇心をかきたてる多種多様な資料の収集

②利用教育 資料・情報を使い、自律して学校生活や社会生活をおくれるように情報の探し方、入手方法などウェブ上、印刷ベースで紹介

③図書委員会活動の充実

- a. 文化祭への参加 例:各学年図書委員がテーマを決めて調査したものを展示
- b. 近隣の高等学校の図書委員と交流会をもつ。

④その他

生徒が授業以外に、部活動の資料や趣味の発表資料を作成したり、DVDを観ることが出来るように機器を充実

IV. 生徒支援

1. 生徒の自己実現を促す進路指導

生徒が、自分の将来への展望を明確にした上で、より良い進路選択ができるよう、指導、助言をする。

- ①年間指導計画に基づいて、必要な情報を生徒・保護者に提供し、生徒の進路意識、学習に対するモチベーションの向上を図る。また、様々な職業やそれに繋がる学問分野についての興味や理解を深める機会をもつ。
- ②実力テストや、学力の推移を調査するテスト等により、生徒の学力や学習・生活実態を調査、分析し、進路委員会、学力検討委員会が職員会議等に生徒の学力向上の為の方策の提言を続けていく。
- ③高大連携を促進する。
- ④資料の整備や留学コーナーの設置、進路相談等、進路室利用の活性化を図る。
- ⑤高校3年生・既卒生の進路状況を把握し、各種資料を作成する。

2. 心身の健康と安全を守るための生活指導と生徒支援

- ①自分自身の心身を健康に保つ方法を身につけるように指導する。そのために保健室・教育相談室(学校カウンセラー)、サポートルームと連携し、生徒・保護者をバックアップする。
- ②授業・学級活動・生徒会活動・クラブ活動・その他の活動が安全かつ充実したものになるように努める。
- ③学校外での生徒の事故やトラブル、迷惑行為等の窓口となり対応する。
- ④不登校や発達障がいなどの支援を必要とする生徒をサポートするために、2010年度より「支援教育委員会」を創設した。この委員会ではスーパーバイザーを招き、年5回 支援を必要とする生徒への対応と方針を協議してきた。また、サポートルームには指導員に常駐してもらい、支援を必要な生徒にアドバイスをおくりつつ、一時的な避難所としての役割をはたしてきた。今後も一人一人の生徒を大切に支援教育を目指していく。

V. 改革・改善

2011年度の課題として、とりわけ以下の項目について重点的に取り組む。

1. 組織の再構築と運営方法の見直しの継続
中学・高校の管理職、部長主任等の決定方法を検討し、より充実した教育が行える組織づくりを図る。
2. 2週間時間割の実施
授業日を増やすことによって生徒の学力の向上と定着をはかる。専任教員の会議の効率化をすすめる。また、専任教員が2週間に一度、全日休日がとれるようにする。これにより労働環境を改善し、生徒への教育効果が高められるようにする。
3. 生徒の学力向上について
中学・高校の生徒自主学習について、自主学習が効果的にできるような支援の検討をすすめる。
4. 新指導要領に向けて教育課程の見直しを行う
中学校 2012 年度、高校 2013 年度の新指導要完全実施に向け、本校の教育目標にも沿ったカリキュラムに改訂し、準備を行う。
5. 従来の国際交流推進委員会、姉妹校提携委員会、帰国子女委員会、カリフォルニア交流事業委員会、留学委員会、海外研修委員会を 2009 年度に統合し、「国際教育委員会」と名称を改め、新組織として出発した。その新組織をもとに留学生受け入れ・送り出しの業務を円滑に行う。また 2010 年から 1 ヶ月の短期留学としてオーストラリアのレーヴンスウッド校との交流を変更した。現在カナダに提携校を探し、本校独自の長期留学制度を発足させるため準備中である。本校からの派遣は 2012 年の予定。
6. 経費の削減と効率化を図る
大阪府の年収 610 万まで高校授業料無償化、年収 800 万円未満保護者負担 10 万円実施による学校負担を受け、諸経費を見直し、経費の削減と効率化を図る。
7. 施設内全面禁煙の取り組み
生徒・教職員の健康に配慮し、とりあえず教職員の喫煙ルームを廃止、施設内全面禁煙とする。さらに禁煙化の定着・充実をはかることができるようにする。
8. 教職員の人権意識の向上
教職員の人権意識を更に深め、授業やクラブ活動での指導はもとより、日常における生徒との関わりの中で、生徒の人権に配慮した指導が十分出来るよう啓発と研修を行う。
9. 2012 年度大学・短期大学図書館開館にともない、中高図書館のあり方を検討
 - ①現図書館の建物の利用方法
 - ②中学・高校図書館としての開館予定の目途
 - ③ネットワークと図書館システム以外の図書館予算、職員などの運営体制
10. マルチメディア教室の準備
教育のマルチメディアの利用をよりすすめるために現在のコンピューター教室と、LL教室を統合し、2012 年度よりマルチメディア教室として運用する。そのための具体的な準備を進める。